

第101号



発行
米原市伊吹老ク連
編集
米原市伊吹老ク連
広報委員会
米原市伊吹老ク連事務局
TEL (0749) 58-1634

長寿社会を心豊かに生きる活動を目指して！

伊吹老ク連 会長 嶋田 正昭



霊峰伊吹は今年も厳しい冬から春へと、春夏秋冬の勇姿を見せてくれます。

「旅に病んで 夢は枯れ野を駆け巡る」の有名な俳人の句を思い出す昨今、コロナ禍の感染が収まらない社会環境で、孤独に人の別れが続く世の中になり、孤立化による高齢者の事故や事件等も多発しております。

伊吹地域の高齢者の皆さんは、コロナ禍の三密予防の自粛に努めていただき、出会いと語らいが少ない日常の中で平穩に過ごされていることと存じます。

子供達がマスク姿で無口に通学する日々、マスク無しで自然に元気に話せるコロナ禍の終息を願う毎日、地域の触れ合いが薄れた少子高齢社会は必然的に閉塞感を生み、我々も寄る年波には勝てず光陰矢のごとしの感がいたします。

伊吹老人クラブ連合会は、今年も各集落の会長さんと各役員が決まり、老ク連本部の理事会を四月二十六日に開催して、伊吹地域の十集落・会員約八〇〇名の方による、令和四年度の活動計画をスタートすることが出来ました。

各集落の老人クラブは長年に渡る活動を積み重ねて、年輪のごとくに年を刻んで令和の時代を迎えておりますが、伊吹老ク連の広報誌「年輪」も、昨年度で創刊から三十年を迎えて、節目となる一〇〇号を発刊するに至りました。

先輩諸氏の連帯と協調による活動の賜であり、継続の力と地域奉仕に尽力を頂いて来た多くの功績に、深い敬意と感謝を申し上げます。

改めて、コロナ禍感染の疫病不安が続く現状と、各地で近年発生した自然界の大災害、更には北欧ウクライナ国の戦禍の惨状を目の当たりにして、昭和から平成・令和の平和な社会を歩んで来た我々、戦禍の餓えや恐怖の凄惨な実態を知らない我々は、今更ながら平和の享受に尽力されてきた、先人の並々ならぬ労苦を思慮し、心より敬愛の念を覚えるところです。

時代の変遷と共に日本社会は、人々の人生観や生活環境への意識は大きく変貌し多様化してきました。核家族化の生活様式と都市部集中型の社会構造が進展するに伴い、少子・高齢社会の現象を生み出し、人口が減少した地方社

会は活力の低下と共に疲弊化を迎えております。

今、IT・AIの情報社会の下で、高齢者の就労と長寿社会に対する考え方の多様化が進み、老人クラブ等の団体への加入意識は薄れて来ており、各団体の弱体化は否めず、次の高齢世代の新たな発想と組織力を期待しています。

コロナ禍の下で活動が計画通り進まない現状に、老人クラブ組織の継続維持は地域社会の一翼と一隅を担い得ているのか、団体を預かる一人として自問・自答が続きますが、役員諸氏と一致協力して対応したいと思っています。

長寿社会にあり人生いろいろですが、互いに人との出会いや交流を大切にし、健康で元気に活動して、心豊かに歩む高齢社会を目指したいものです。

最後に、地域が繋がる「老人クラブ」へ参加と協力をお願いいたします。



組織表

(敬称略)

役 職		氏 名	役 職	氏 名
会 長		嶋 田 正 昭	部 会 長 常任理事	伊 藤 一 司
副 会 長		上 津 和 雄	副部会長 "	石 河 勝 美
監 事		長 尾 龍 秀	部 会 員 単老ク	女 性 代 表
"		多賀健之輔	" "	友 愛 担 当
顧 問		松 井 重 廣	部 会 長 常任理事	石 河 勝 美
"		久 保 稔 江	副部会長 "	伊 夫 伎 博 夫
企 画 部 会	部 会 長	上 津 和 雄	部 会 員 大久保老ク	長 尾 龍 秀
	副部会長	嶋 田 正 昭	" 伊 吹老ク	堀 井 孝 祐
	部 会 員 常任理事	伊 藤 一 司	" 上 野老ク	吉 川 政 伸
	" "	石 河 勝 美	" 春 照老ク	福 永 栄 造
	" "	伊 夫 伎 博 夫	" 高 番老ク	藤 田 佐 知 夫
	" "	欠 員	" 杉 澤老ク	武 田 孝
	" "	欠 員	" 村 木老ク	日 比 孝 三
	" "	欠 員	" 藤 川老ク	高 木 悟
	" "	欠 員	委 員 長	伊 夫 伎 博 夫
研 修 部 会	部 会 長 常任理事	伊 夫 伎 博 夫	副委員長 副会長	上 津 和 雄
	副部会長 "	伊 藤 一 司	委 員 常任理事	全 員
	部 会 員 上板並老ク	伊 賀 並 功	創造推進員	高 橋 兵 太
	" 大清水老ク	多賀健之輔		

四月二十六日(火)伊吹地域福祉センター愛らんどに於いて、感染対策を講じ乍ら理事会を開催し、伊吹老ク連の令和四年度事業計画、予算等が審議され承認されました。しかしながら新型コロナウイルスの感染者も高止まりの傾向にあり、依然、終息の見えない状況であります。新しい生活様式にもとづき事業を進めていきたく思っています。しかしながら、感染状況によっては、今年度も、事業計画の中止、変更が生じるものと予測されますので何卒、ご理解下さいますようお願いいたします。

令和4年度伊吹老人クラブ連合会組織事業計画

単位老ク役員・会員数一覧表

(敬称略)

単ク名	会 長	副会長	女性代表	友愛担当	会 員 数		
					男	女	計
上板並	伊 賀 並 功	小 杉 長 男	伊 賀 並 香	室 谷 か ず よ	10	14	24
大久保	長 尾 龍 秀	大 門 正 弘	松 井 貞 子	白 井 涼 子	19	25	44
伊 吹	堀 井 孝 祐	伊 夫 貴 典 隆	宮 下 芳 枝	伊 富 貴 佐 知 子	61	70	131
上 野	吉 川 政 伸	高 橋 兵 助	高 橋 か ず み	高 橋 澄 子	97	105	202
春 照	福 永 栄 造	福 永 善 次 天 大 野 龍	福 永 映 子	三 原 君 子	47	59	106
高 番	藤 田 佐 知 夫	筒 井 俊 文	林 美 智 子	近 藤 か づ	21	30	51
杉 澤	武 田 孝	宮 崎 義 文	内 倉 百 合 子	山 崎 由 美 子	34	49	83
村 木	日 比 孝 三	柴 栄 正 和	山 田 哲 代	中 西 陽 子	32	37	69
大清水	多賀健之輔	宮 川 政 義	児 玉 美 智 子	西 川 百 合 子	17	13	30
藤 川	高 木 悟	川 並 喜 朗	早 田 和 子	高 木 里 子	25	34	59
計	—	—	—	—	363	436	799

事業実施計画

月	日	曜	行事内容等	場 所	月	日	曜	行事内容等	場 所
4	13	水	A企画部会	愛らんど・相談室	11	10	木	A秋季G G大会	第1 G・県立運動場
	13	水	広報委員会（編集）	＃		11	金	＃（予備日）	＃
	21	木	AP市町老ク連担当者会議	長寿社会福祉センター		16	水	第61回県老人クラブ大会	栗東文化芸術会館
	26	火	A 理事会	愛らんど・会議室		25	金	A企画部会	愛らんど・相談室
	28	木	A市老ク連第1回理事会	愛らんど・相談室		25	金	A広報委員会（編集）	愛らんど・相談室
5	24	火	A 保体部会 初夏競技説明会	愛らんど・会議室	2	10	金	A保体部会（競技説明会）	愛らんど・研修室
	27	金	A広報委員会(割付)	愛らんど・相談室		15	水	A市老ク連第3回理事会	愛らんど・相談室
6	8	水	A初夏複合スポーツ大会	県立G・第2 G		16	木	AP冬季GB大会(開会式)	すばーくいぶき
	9	木	＃（予備日）	＃		17	金	＃（閉会式）	＃
	13	月	広報委員会（校正）	愛らんど・相談室		21	火	A広報委員会(割付)	愛らんど・相談室
	30	木	広報年輪発行	伊吹地域全世帯		28	火	県高齢者相互支援活動研修会	長寿社会福祉センター
7	8	金	AP創造推進等研修会及び ニュースポーツ講習会	長寿社会福祉センター	3	2	木	A広報委員会(校正)	愛らんど・相談室
8	3	水	A友愛訪問品配布	愛らんど・事務所		7	火	APスマイルボウリング大会	山麓総合体育館
	19	金	A 福祉部会 友愛情報 交換会・研修会	愛らんど・研修室		17	金	A企画部会	愛らんど・相談室
	24	水	A市老ク連第2回理事会	愛らんど・相談室		23	木	広報発行	伊吹地域全世帯
	24	水	A市老ク連高齢者スポーツ 大会競技説明会	＃		27	月	A伊吹老ク連会計監査	愛らんど・事務所
	30	火	A保体部会 競技説明会	愛らんど・会議室		27	月	A市老ク連会計監査	愛らんど・事務所
9	20	火	A市高齢者スポーツ大会	長浜ドーム	実施時期未定事業				
	26	月	A研修部会	愛らんど・相談室	※寿ふれあい広場（高齢者研修会）・・・ジョイホール				
10	19	水	AP第53回囲碁大会	ジョイ伊吹	※一泊2日研修旅行又は日帰り研修旅行				
	25	火	A保体部会 競技説明会	愛らんど・会議室	※オブジェ講習（運転技能自動評価システム）随時				

※Aは午前、Pは午後、APは終日を示す。

令和4年度 あわない・起こさない シルバー無事故・無違反運動

運動
期間

令和4年

7月1日(金)～10月31日(月)

ゆずり愛 無事故きらめく びわ湖道
横断歩道 譲ってくれた 滋賀ナンバー
ペダルこぐ 私も一人の ドライバー

令和4年度 滋賀県交通安全スローガン

滋賀県交通安全無事故運動実行委員会・米原交通安全協会

単クだより



会長に就任して

春照老人クラブ

会長 福永 栄造

風薫る季節、あふれる陽光に向かつて皆様方には、益々ご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

ところでこの二年余り、新型コロナウイルス感染症の拡大で、市民の皆様方には苦労や困難な生活をしいられ、収束の見えない事態の社会情勢のなか一刻も早い終息を願っています。

春照老人クラブに加入し十年余りが過ぎました。団塊世代の高齢により日本人口は高齢化の反面、老人クラブへ加入される方が少ない状態であります。何十年にわたり数々の苦労と経験を重ねて老後の生活に不安を感じながら、これからも心身ともに健康に過ごせる老後を夢見て活動をしていきたいと思っています。

しかし、人は健康で病気もなく働けるときは地域の組織や団体に加わし数々の活動をしなくても、他人に気がねなく自由で気楽に過ごせる事が



奉仕活動

出来る事を求められているのではないのでしょうか。

また、近年全国各地で震災、風水害等災害が発生するたび、ボランティア等地域の皆さん方とふれあい活動ができるように、心のケア等が必要であり、そんな役割が求められているのではないかと感じられます。会長として地域の皆さん方とふれあい活動が出来るようにクラブ員の皆様と力を合わせて取り組みたいと思います。



希望の未来

伊吹親和会

会長 堀井 孝祐

我がまち伊吹では、毎年お盆の時期に「さかなつかみ大会」のイベントを地域ぐるみで楽しんでいました。写真からは、当時の状況が懐かしく思い出されます。

「さかなつかみ大会」には、地域の子供達や、お盆に帰省の子供達と、その御両親、そして、イベントを主催する地域の団体で構成され、子供から若者、そして私達に到るまで、幅広い年代が、かき氷・マス焼き・焼きそば・生ビール等のイベントを通したふれあいで、一日を楽しむことが出来ていました。

その他に、四月には「朝日豊年太鼓踊保存会」の皆様をお招きして、五穀豊穡を祈る「伊吹お田植祭」や、古くは室町時代から続いている「オコナイ」も全てが地域ぐるみで、人とひとのふれあいの大切な場でもありました。

「コロナ」前までは...しかしコロナ禍で、三密厳禁を言われるようになり、私の地域でも、「伝統文化事業」「各



世代間交流

種イベント」「生活様式」も大きく様変わり之余儀なくされ、「さかなつかみ大会」は中止、「オコナイ」は規模縮小、「お田植祭」は令和六年に延期になりましたが、実際の開催時期は不透明だと思います。今後、コロナが一日も早く収束に向かい、コロナ前のような元気な伊吹の復活を心から願っています。

しかし、コロナ禍のなかにあっても、伊吹親和会の皆様は、地域の福祉活動にグラウンドゴルフやゲートボール等のスポーツに、元気一杯です。私はそんな伊吹地区の親和会の皆様と共に、コロナにも負けずに、この一年を過ごせたらと願っています。

編集後記

令和四年度も一月からの新型コロナウイルス第六波の中で、三回目ワクチン接種の効果からか新規感染者数が減少してきましたが、夏場に向けて予断を許さない状況は変わらず、計画している事業が円滑に実施出来るかと心配をしています。新型コロナウイルス感染症対策は今後も続くものと思われませんが、世間では四回目のワクチン接種の計画が進められています。今年度も老人クラブ連合会の活動は状況を見守って判断していきます。屋外での競技は昨年度も実施しましたが、屋内競技は今年度も感染者数の動向を見ながら検討となります。

年二回発行の広報紙ですが、今回は令和四年度の行事計画を掲載しています。各単位老人クラブから多数の皆さんが参加していただいて、交流と情報交換の場として心温まる有意義な時間を過ごしていただけるよう、皆様の積極的な活動参加と老人クラブ運営に格別なるご支援をお願いいたします。

広報委員長 伊夫 伎博夫